



今月も各地区の歴史について紹介したいと思います。

### ～打井川について～

仁井田川に合流する打井川の流域（中・奥打井川）と合流地点の対岸（口打井川）に位置する山間地域です。地名の「ウツ」は狭い谷を意味する所から、「狭い谷川」という意味で地名がつけられた（高知県地名大辞典）と云う説と、家地川より移り住んで来た「影井」という人が苗字を「宇津井」に変えてこの地を開いた事から地名がついた（大正のむかし話）と云う説があります。

地名は宇津井川（～明治初期）→ 討井川（年代不明）→ 打井川（明治22年～現在）と変化しています。

明治30年打井川小学校設置、同40年道文神社再興。大正13年打井川尋常小学校まで道路開通。昭和23年打井川小学校新校舎を建築、同25年沈下橋完成、同36年打井川地区集会所落成。同45年県道猪ノ又線開通、同年県道舗装工事を施行、同46年打井川中学校北ノ川中学校に統合。同47年打井川小学校鉄筋2階建て校舎完成。同49年国鉄予土線開通、打井川駅開設。同53年打井川橋完成。平成9年打井川小学校僻地集会所改築、同16年打井川小学校休校。

### ～打井川の神社祭礼ついて～

打井川地区には多数の神社祭礼行事があります。その中でも有名な行事として「道文さま」と「馬之助さま」が現在も行われています。ここでその2つの行事について紹介します。



#### <道文神社>

**所在地**：奥打井川字小畑山京殿

**祭神**：秦 道文・武文

**由来**：「元弘の乱」(1331)の後、鎌倉幕府の北条高時に

よって後醍醐天皇は隠岐に、尊良親王は土佐に流されましたが、その時秦道文・武文の兄弟が親王のお供として土佐にきたと云われています。土佐では現在の大方町米原の山里に住んでいたと云われていますが、その後道文は親王のお姫様を迎えて来いと命をうけて京都に上る途中、奥打井川で病気にかかり亡くなったそうです。この時親王の命を果たせなかった道文は「病に苦しむ者は我が墓に参ると病気は治るであろう……」と最後に遺言を遺したと云われています。

**祭日**：旧暦2月3日（平成17年は3月12日）

#### <馬之助神社>

**所在地**：中打井川字市ノ又

**祭神**：馬之助大明神

**由来**：昔、奥打井川の野重峠のふもとに住んでいた百姓の子に馬之助という子供がいました。その子供は家が貧乏という事もあり、周りの家から物を盗んだり悪い事ばかりしていたようです。何度怒っても言う事をきかず、周りの人々にも迷惑をかけるので、父親は中打井川の市ノ又谷へ馬之助を捨てよう決めました。その後市ノ又谷に捨てられた馬之助は赤イコ（沢ガニ）などを食べて生き延びていましたがとうとう亡くなってしまったそうです。それからというもの打井川では不思議な出来事が次々と起こったので、村人は馬之助大明神としてこれを祭るようにしたと云われています。（詳しくは大正町教育委員会発行の大正のむかし話に記載されています）

**祭日**：旧暦3月7日（平成17年は4月15日）